

番号	15	平成26年度公共事業再評価調書			担当課名	農地保全課			
事業名	農道整備事業(基幹)			事業主体	静岡県				
地区名	おじまもばた <sup>き</sup> 小島茂畑2期 地区			関係市町村	静岡市				
事業採択年度	平成16年度		計画期間	平成16年度 ~ 平成31年度					
再評価理由	事業採択後10年経過		工事着手年度	平成16年度					
事業費 (百万円)	全体計画事業費		H24年度まで	H25年度	H26年度見込	H27年度以降			
	1,198		368	60	50	720			
事業量	1,768 m		336 m	74 m	50 m	1,308 m			
事業概要	<p>(1)事業目的 本地区を含む清水区北部の中山間地は茶・ミカンの栽培が盛んな地区で、小島および茂畑地域も清水ブランドの一翼を担っている。しかしながら、各々の地域を結ぶ農道はなく、また、地域内の農道も狭小であり、農産物、資材の搬入出に不便が生じている。このため、本路線の整備により通作や集落間移動の利便性を向上させ、輸送コストなどの営農経費の節減を図ると共に、災害時の迂回路として役割を担うものである。</p> <p>(2)事業内容 農道整備L=1,768m(W=4.0m)</p>								
事業の必要性	<p>【視点1】(1)事業を巡る社会情勢等の変化 ・お茶はJA清水管内の主要な産地の一つであり、清水茶産地四撰として登録されているが、茶の価格低迷、農業者の高齢化に伴い、産地の競争力の維持向上が重要な課題であり、農道開設による営農労力の節減が急務となっている。 ・柑橘類では、青島温州が主体ではあるが、最近では「はるみ」などの中晩柑も栽培されているなど意欲ある農家も現れている。</p> <p>(2)事業の投資効果 総便益(B) : 4,273,417 千円                      総費用(C) : 2,518,974 千円 総費用総便益比(B/C) : 1.69</p> <p>(3)事業の進捗状況 【事業費】                      35.7%                                      428百万円/1,198百万円 【事業量】                      23.2%                                      410m/1,768m</p> <p>これまでに「小島茂畑1期」地区を完了した。現在「小島茂畑2期」地区を実施しており、また、平成25年に「小島茂畑3期」地区を新たに着手している。当該事業箇所は、急峻な地形の上、風化礫層が点在しているため法面保護等の対策が必要となり、また片押し施工したことにより工事に時間を要している。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:10%; text-align: center;">評価</td> <td style="width:20%; text-align: center;">継続が妥当</td> <td style="width:70%;">視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</td> </tr> </table>						評価	継続が妥当	視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない
評価	継続が妥当	視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない							
今後の事業の進捗の見込み	<p>【視点2】本地区は、地元関係者が建設委員会を組織しており、用地買収、地元調整は順調である。また、H25年度に茂畑側の3期地区を採択し、両側からの施工が可能となった。これにより平成31年度完了を目標として事業を進める。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:10%; text-align: center;">評価</td> <td style="width:20%; text-align: center;">継続が妥当</td> <td style="width:70%;">視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</td> </tr> </table>						評価	継続が妥当	視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない
評価	継続が妥当	視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない							
新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性	<p>【視点3】擁壁を減らす詳細なルート選定や道路側溝などを水路兼農道に変更し、構造物を極力減らす。また、擁壁工を補強土壁等の新工法に変更し、コスト縮減に努める。</p>								
対応方針案	<p>(1)対応方針案 本事業を( <u>継続</u> ) ・ 見直し後継続 ・ 中止 ) する。</p> <p>(2)理由 清水区小島地区、茂畑地区の農業の振興と生活環境の改善及び災害時の迂回路としての地元の期待が大きいため、事業を継続する。</p>								

費用対効果の分析資料

担当部課名 農地保全 課

事業名	農道整備事業(基幹)	地区名	小島茂畑2期	おじまもばたにき
経済効果項目の体系	事業効果	食料の安定供給の確保に関する効果	作物生産効果	<input type="checkbox"/>
			品質向上効果	<input checked="" type="checkbox"/>
			営農経費節減効果	<input type="checkbox"/>
			維持管理費節減効果	<input checked="" type="checkbox"/>
			営農に係る走行経費節減効果	<input checked="" type="checkbox"/>
		農業の持続的発展に関する効果	耕作放棄防止効果	<input type="checkbox"/>
			災害防止効果(農業関係資産)	<input type="checkbox"/>
		農村の振興に関する効果	災害防止効果(一般資産)	<input type="checkbox"/>
			地域用水効果	<input type="checkbox"/>
			一般交通等経費節減効果	<input checked="" type="checkbox"/>
			地籍確定効果	<input type="checkbox"/>
		多面的機能の発展に関する効果	非農用地等創設効果	<input type="checkbox"/>
災害防止効果(公共資産)	<input type="checkbox"/>			
景観・環境保全効果	<input type="checkbox"/>			
		都市・農村交流促進効果	<input type="checkbox"/>	
効果の算定				
総便益の内訳	品質向上効果			
	農道整備の実施により、荷傷み防止効果が発生する。			
	[便 益] = 98,957 千円			
	走行経費節減効果			
	農道整備により輸送体系や通作時間が改善され、労務費等の経費縮減効果が発生する。			
	[便 益] = 3,673,461 千円			
の内訳	維持管理費節減効果			
	農道整備により、施設の維持管理費が新たに発生する。			
	[便 益] = -3,744 千円			
	一般交通等経費節減効果			
農道整備により、一般交通の利用効果が発生する。				
[便 益] = 504,743 千円				
総費用の内訳	総便益			
	品質向上効果	走行経費	維持管理費	一般交通等経費
	98,957	+	3,673,461	+
			-3,744	+
				504,743 =
				4,273,417
総費用の内訳	総費用			
	① 当該事業費	2,516,797 千円		(当該事業で整備する施設費用)
	② 評価期間における再整備費	321,252 千円		(工事期間+40年の評価期間内の再整備費)
③ 評価期間終了時点の資産価額	319,075 千円		(工事期間+40年の評価期間終了時の資産額)	
	総費用=①+②-③	2,518,974 千円		
		総費用総便益比		
①総便益	4,273,417 千円			
②総費用	2,518,974 千円			
総費用総便益比	= 1.69			

農道整備事業(基幹)小島茂畑地区  
位置図

静岡市

国道52号線

農道整備事業(基幹)  
小島茂畑地区

県道横砂茂畑線

国道1号線

東名高速道路

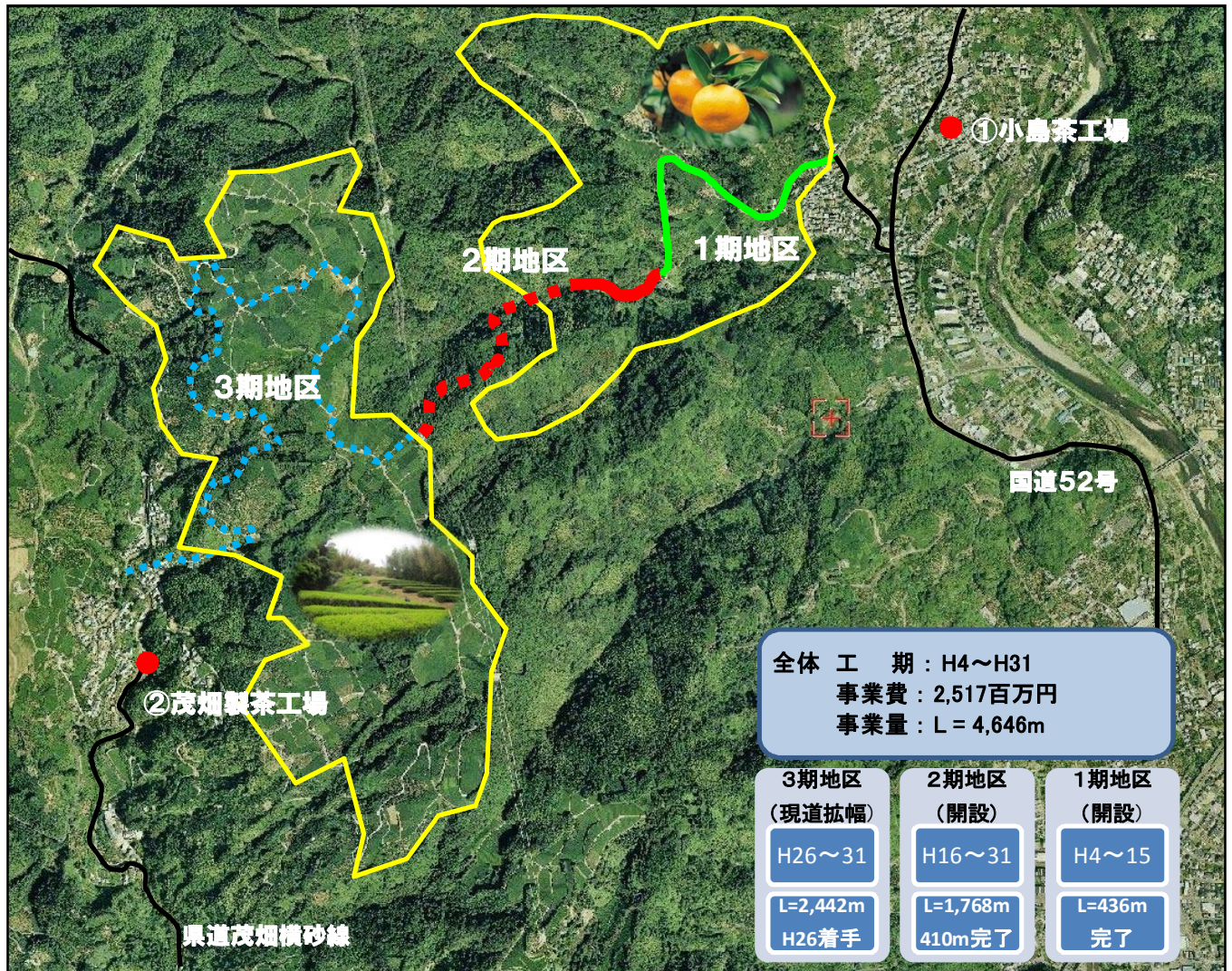
凡例

主要地方道

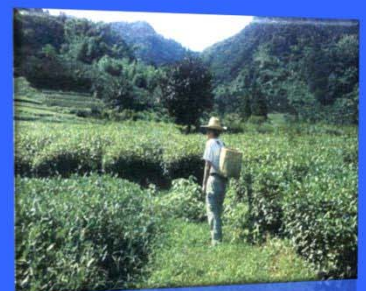
農道整備事業(基幹)  
小島茂畑地区

受益

# 農道整備事業(基幹) 小島茂畑地区 全体計画



## 事業の必要性



狭小な農道や徒歩・索道による通作や運搬



農道開設・拡幅改良による営農労力の削減が急務

## 基幹農道整備事業 小島茂畑地区 進捗状況

急峻な地形や風化礫層に伴う開設単価の高騰により、進捗に遅れ

【H25末まで進捗状況】 2期地区／事業費：428百万円（35.7%） 事業量：410m（23.2%）  
 全 体／事業費：623百万円（24.8%） 事業量：846m（18.2%）



急峻な地形＋風化礫層



法面保護工＋谷側擁壁

## 基幹農道整備事業 小島茂畑地区 事業効果

農道開設により、通作や生産物等運搬に係る労力が大幅に削減！

品質向上効果

総便益：0.9億円

一般交通に係る走行経費節減効果

総便益：5.0億円

営農に係る走行経費節減効果

総便益：36.7億円

### 農道完成区間における効果発現状況



生産物や資材をトラックで運搬



車両による畑までの通作が可能に

投資効率

B/C=1.69

総費用(C)25.2億円  
 総便益(B)42.7億円

事業を継続し、早期完成を図る